

発行 日本共産党南知多支部



連絡先
〒470-3321 南知多町
内海内塩田77-3
(南知多町議会議員)
内田 保
電話 0569-62-1816
携帯 090-2776-7529

# 内田たもつだより

内田たもつ ホームページ
http://uchida-tamotsu.jimdo.com



日本共産党発行
Lsh 赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

## 制服・校則問題を考える

### 子どもたちを主人公にした主権者教育を 新中学校の制服・校則問題等を3月議会で質問します

篠島中学校以外の4中学校が令和5年4月から内海中学校に仮統合され、その5年後には新設の中学校が豊浜に開校する予定になっています。

令和4年1月に第1回中学校再編委員会が開かれ、その基本的な準備の方向が示されました。教育計画・施設資料・学

校運営・生徒活動・地域課題の検討部会が設置され準備が進んでいます。制服や意見交換しました。

#### 誰もが過しやすい学校に

「帰属意識を持てる」「経済的」などの理由で、当たり前とされてきた制服、理不尽な校則への批判の高まりや多様性の尊重を背景に各地で見直しの動きがでてきます。

中日新聞1月27日夕刊に、福岡県糸島市のある男子中学生の事例が載っています。入学時、真っ黒で威圧的な学生服に抵抗を感じ、「友達が制服を着る自由は尊重したいが、みんなと同じを押しつけられたくない」と中学校と

市教委に私服登校を申し入れた。学校は許可しなかったが、後で制服を着ていないことで指導を受け、約1ヶ月の不登校になりました。その後、市民グループが「私服でも安心して通える環境をつくって」と申し入れました。市教委



は1月の回答で、「通学服は標準服である」とし、標準服以外の着用は、個別に保護者や生徒と協議して決めることになりました。(裏面参照)

#### 大人の決まりを押しつけて

内田議員は3月議会の一般質問で、新中学校の制服・校則等のあり方を取り上げます。主権者教育の立場から、生徒を前面にした多様性を尊重した話し合い・決定の手続きについて、質問します。

効率的な授業運営のために、管理・支配・命令の立場から教育委員会や教師が決めた決まりに従わせるといのがこれまでの教育です。生徒を主権者教育の立場としてみるのが中心ではありませんでした。

時代は、ジェンダー平等、LGBTQなどの多様性を尊重する時代が変わってきています。制服・校則問題は、未来を担う主権者である生徒たちが自ら学び、考え、決定する絶好の機会です。



内海中学校



#### (川柳コーナー)

靴下は白セーターは紺なんてかな？

中学校勤務の冬、寒い教室で教師は沢山着込んで授業、生徒は制服の下に着るものも決められ、上着も禁止。おかしいと職員会議で主張したが通らなかつた。そんな時代はもう終わりにしよう。

孝彦さんが、制服・校則・定期テストをなくした取り組みが紹介されました。

西郷元校長は、「学校生活で一番大事なのは、子どもたちが幸せな3年間を送ること」として2020年までの10年間、生徒と教員と一緒に考えてきました。「靴下の色は紺はだめで白、セーターは白はだめで紺」とする矛盾を、自由な意見交換を保障しながら、制服・校則を自由化してきました。

西郷元校長は、大人は、管理主義や能力主義に毒されやすく、子どもにも「能力」を無意識に求めていると述べています。校長室のドアは開けっぱなしにし、「生きつらさ」を抱える様々な生徒に寄り添ってきました。

#### 主人公は子どもたち

「誰にでも世界は変えられる」

子どもたちに「社会に合わせるんじゃなくて、自分に合った社会に変えればいいんだよ」と言ってきたそうです。主権者教育は成功体験を重ねることが大事で、制服・校則の自由化もそうです。教育における主人公は、子どもたちです。

南知多町でも生徒たちを信頼した学校改革になるように注目していきます。



子どもが幸せと思える学校に
「校則も定期テストもやめさせた」
2月13日の赤旗白曜版に、東京の世田谷区桜ヶ丘中学校の校長だった西郷